

「JENESYS2.0」

中国食品安全関係者代表团

訪問日程 平成 26 年 7 月 27 日（日）～8 月 3 日（日）

1 プログラム概要

中国国家質量監督検験検疫総局が派遣した中国食品安全関係者代表团計 32 名が、7 月 27 日から 8 月 3 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長：蒲民（ホ・ミン）中国国家質量監督検験検疫総局 輸出入食品安全局 四处 調査研究員）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、厚生労働省や各種輸入食品の検査・検疫関係機関、食品関連企業などの訪問や交流の場を通じて、日本の青年や市民との親睦を深めるほか、世界遺産や防災学習施設などの見学、日本文化体験などを通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

7 月 27 日（日）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

7 月 28 日（月）

厚生労働省による講義、浅草見学、凸版印刷(株)TNM&TOPPAN ミュージアムシアター見学、歓迎会

7 月 29 日（火）

日本水産（株）八王子総合工場・東京イノベーションセンター訪問・視察、東京タワー見学

7 月 30 日（水）

（一財）日本冷凍食品検査協会横浜試験センター訪問・視察、カップヌードルミュージアム見学、京都府へ移動

7 月 31 日（木）

嵐山亀山公園周恩来歌碑・渡月橋見学、金閣寺見学、茶道体験・講演（福寿園京都本店）、錦市場見学、兵庫県へ移動、和風旅館での日本文化体験

8 月 1 日（金）

厚生労働省神戸検疫所・輸入食品検疫検査センター訪問・視察、人と防災未来センター見学、小山本家酒造灘浜福鶴蔵見学

8 月 2 日（土）

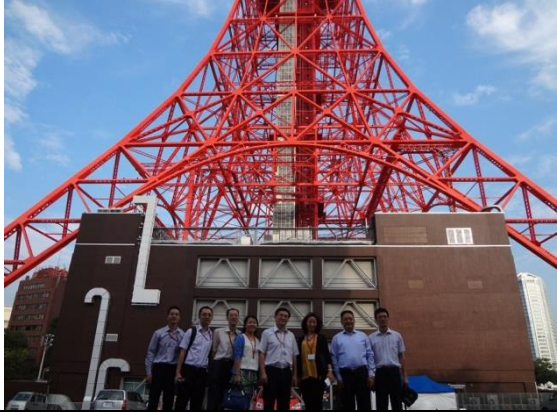
大阪府へ移動、イオンモール大阪ドームシティ訪問・視察、商業施設視察、歓送報告会

8 月 3 日（日）

関西国際空港より帰国

3 写真

	
7月28日 厚生労働省による食品安全行政の講義（東京都）	7月28日 TNM&TOPPAN ミュージアムシアター見学（東京都）
7月28日 厚生労働省講座 介绍食品安全行政内容（東京都）	7月28日 参观TNM&TOPPAN 博物馆剧场 （東京都）
	
7月28日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長（右）に記念品を贈呈する蒲民団長（左）（東京都）	7月28日 歓迎会 団員と交流する呂克儉中華人民共和国駐日本国大使館商務部公使（左）（東京都）
7月28日 歓迎会 蒲民団長（左）向江田五月日中友好会館会長（右）贈送紀念品（東京都）	7月28日 歓迎会 呂克儉中国駐日本国大使館商務部公使（左）与团员进行交流（東京都）
	
7月29日 日本水産（株） 八王子総合工場 訪問・視察（東京都）	7月29日 日本水産（株）東京イノベーションセンター訪問 商品を使用した昼食を頂く（東京都）
7月29日 访问考察日本水产株式会社 八王子综合工厂（東京都）	7月29日 访问日本水产株式会社东京创新中心 品尝使用公司产品做成的午餐（東京都）

	
7月29日 東京タワー見学（東京都）	7月30日（一財）日本冷凍食品検査協会 横浜試験センター訪問・視察（神奈川県）
7月29日 参观东京塔（东京都）	7月30日 访问考察一般財団法人日本冷凍 食品検査協会横浜試験中心（神奈川県）
	
7月30日カップヌードルミュージアム見学 オリジナルのカップヌードル制作を体験 （神奈川県）	7月31日 嵐山渡月橋見学（京都府）
7月30日 参观日清方便面博物馆 体验杯装方便面的制作过程（神奈川县）	7月31日 参观嵐山渡月桥（京都府）
	
7月31日 金閣寺見学（京都府）	7月31日 福寿園京都本店にて茶道体験 （京都府）
7月31日 参观金阁寺（京都府）	7月31日 在福寿园京都本店体验日式茶道 （京都府）



7月31日 地域のボランティアと錦市場の見学（京都府）

7月31日 与当地的志愿者一起参观锦市场（京都府）



8月1日厚生労働省神戸検疫所・輸入食品検疫検査センター 訪問・視察（兵庫県）

8月1日 访问考察厚生劳动省神戸检疫所・进口食品检疫检查中心（兵库县）



8月1日 人と防災未来センター見学（兵庫県）

8月1日 参观人与防灾未来中心（兵库县）



8月1日 小山本家酒造灘浜福鶴蔵見学（兵庫県）

8月1日 参观小山本家酒造滩滨福鹤藏酿酒厂（兵库县）



8月2日 イオンモール大阪ドームシティ 訪問・視察（大阪府）

8月2日 访问考察永旺梦乐城大阪 Dome City（大阪府）



8月2日 歓送報告会 訪日成果報告（大阪府）

8月2日 欢送报告会 团员汇报访日成果（大阪府）

4 参加者の感想（抜粋）

○厚生労働省や食品生産会社、食品検査機関を視察し、日本は食品の安全・監督管理において独自の特色を持っていると感じた。日本政府の関連部門は、異なる国・地域からの輸入食品に対し、それぞれの商品にあわせた異なるリスクに対応できる措置を講じている。

今回の訪日では、“ニッスイ”（日本水産）を視察した。その生産環境、生産設備、生産工程、品質管理システムを間近に見て、ニッスイのような日本の優れた企業から中国の食品会社は学ぶべきことがたくさんあると感じた。まず、ニッスイは信頼できる生産元から原材料を仕入れ、生産設備の自動化率が高く、品質システムのオペレーションも良好で、商品の高い品質と安全性を保証している。また、同社は関連の政府機関の監督管理にも協力的だ。企業が主体的な責任を負い、政府が監督責任を負う。双方が協力し、ともに国民の舌の安全を守っている。

○日本は輸入食品への依存度が高く、国民の食の安全に対する関心も高い。中国は世界一の人口を抱えており、13億人の食糧需要を満たすのは国内だけでは不十分で、その多くを輸入に頼っている。現在、日本が取っている輸入食品の監督管理は、安全を保証するだけでなく、貿易を促進し、国民の需要を満足させることもできる、中国も学ぶべき制度だ。

○日本の食品管理システムの全体像を理解できた。カップヌードル、水産品、日本酒などの生産技術について、更に理解を深めたほか、日本の生産業や小売業の品質・衛生管理に一定の理解を得た。また、人と防災未来センターの参観を通じて、日本の多災多難の歴史を知った。日本国民が再び被災しないよう、祈っている。

○日本の食品管理システムに対する理解が深まった。予防を主とし、問題を未然に防ぐ日本のリスク管理体制からは特に学んだものが大きかった。日本の食品生産者は安全に対する責任意識が高く、消費者にサービスを提供するという立場から製品の品質と安全の確保に努めることができる。

また、日本の文化にもある程度の理解が生まれ、その独特の魅力に気がついた。

日本人は絶えず研鑽を積み、仕事態度は非常に真面目で、計画性のある人々だ。

○日本語を学んでいる関係で、訪問前に日本と日本人についてはある程度理解していた。これまでメディアを通して間接的に日本の社会に接していたが、今回の訪問で実際に体感し、その印象を深めることができた。

1. 厚生労働省を訪問し、同省職員の仕事に対する理念と仕事の仕方について理解することができた。
2. 食品生産・加工会社を訪問し、日本の食品生産者が商品に対して強い責任感と仕事へのプライドを持って臨んでいることが分かり、また違った角度から商品の品質向上について考えることができた。
3. 食品関連の検査センターで視察した具体的な作業内容が、私たちが今まさに取り組んでいる仕事において参考になった。
4. 一連の文化交流と文化体験を通して、日本という国や日本人への理解を深めることができ、私のこれからの日本語学習にとっても大きな後押しとなった。

○日本はとても清潔で、環境保護の状態も非常によい。また、日本人は一般教養が高く、礼節を重んじ、もてなしは温かく、謙虚だ。勤勉で、仕事は何一つ疎かにせず、ディテールまで重視する。

今回の活動では、日本の食品業界の品質管理について基本的な理解を得られたと同時に、日本のハイレベルで高品質な食品を通して、日本政府の同分野に対する努力を見て取ることができた。今後機会があれば、日本の食品の監督管理についてさらに学び、実践に活かしたい。

○印象深かったこと：日本の管理は綿密で非常に正確だ。今回の視察訪問から、日本の管理テクニックを肌で感じることができた。日々の活動のスケジュール管理の様子を見て、行き届いたマネジメントはある種の制度であり、国民資質の象徴でもあることを十分理解することができた。

周囲に伝えたい情報：あきらかな“異国感”を感じることはなかった。日本人は中国人と似た容貌、文字、礼節を持っており、それが親近感や友好の基礎となっている。さらに、友好的で丁寧なサービス、国全体の清潔さ、秩序と効率、安全性、先進性など、帰国したら友人や家族にこうした日本のプラスの面を紹介し、安心して日本に旅行に来るように伝えたい。

○中国には「百聞は一見にしかず」という諺がある。日本滞在中の視察は、実際に肌で感じて理解を深めることにつながった。日本の地震防災対策は、世界の手本となるもので、この分野における努力と探求は人類にとっての財産である。人と自然の調和のとれた共存の提唱は、人類の社会が向かうべき方向を示している。中日両国は、政府であれ、国民であれ、互いにより一層の理解を深め、ともに世界平和の発展に貢献すべきだ。

○今回の訪問で、印象深かったのは以下の点だ。

1. 美しく秩序ある環境

日本は国土が狭く、人口が密集していて、道路も広くはないが、自動車の保有量が多い。しかし、路上はよく整備されていて、小さな駐車場がたくさんあり、街並みを秩序あるものにしている。

2. 合理的な資源利用と節約

日本人の生活の質は高いが、非常に倹約家でもある。日本料理の最大の特徴は無駄がないことであり、日本人はまた、ゴミの分別を通して最も有効的な資源利用を行っている。ショッピングセンターやホテルなど、至るところに資源の節約と環境保護を促すメッセージが掲げられている。企業も全面的に資源の有効利用に取り組んでおり、自然環境との調和のとれた共存を目指す理念は企業の管理体制に浸透している。

3. 高い商品品質

トイレやホテルのアメニティグッズなど、公共施設を利用すると、日本の商品は確かに高品質だと感じる。使い心地が良く、快適だ。

4. 日本人の真面目な仕事ぶり、親切なもてなし、礼儀正しさ

数日間の公式行事における受け入れ機関の職員の方々の仕事ぶりが非常に丁寧で、手抜き箇所は一切なかった。準備が丁寧で、対応も親切だ。どんな職業でも人々は仕事に情熱を注ぎ、真剣に取り組んでいる。さらに、真心を込めてサービスすることを喜びとし、いつでもどんな場合でも他人を喜ばそうとしている。

○今回最も印象深かったのは、自分の本業の分野で日本の状況を理解することができ、間違いなく今後の自分の仕事面に役立てられるということだ。第2に、日本は環境保護に力を入れており、国、企業、国民がそろって共通認識を持ち、ゴミの分別など国全体で有効に進めている。第3に、日本は災害に対する反省と予防の意識から、国が災害の発生前に被害を最小限にとどめ、国民の安全を最大限守ることを保証している。第4に、日本人は礼儀正しく、時間に正確で、勤勉で、向上心が旺盛だ。8日間の短い日程であったが充実していた。まだ考えるべきことがたくさんあるが、これらのことを帰国後周囲の人に伝えたいと思う。日本への理解が深まった後、中日両国間の根底で続いてきた歴史的、文化的な交流と、文化的融合は非常に貴重だという想いを強くした。中日両国の友好が永遠に続くことを祈っている。